

早 秋(そうしゅう)

登録番号: 第11115号	来 歴: 永勝一 小澤俊治 中島育子
登録年月日: 平成15年3月17日	歴: 「伊豆」と「109-27」(「興津2号」×「興津17号」)の交雑実生
登録者: 独立行政法人農業技術研究機構 (茨城県つくば市観音台3-1-1)	育成地: 広島県豊田郡安芸津町(独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所ブドウ・カキ研究部)
育成者: 山田昌彦 山根弘康 佐藤明彦 平川信之 岩波 宏 吉	

特 性

■栽培特性

樹姿は開張性で、樹勢は「富有」より弱い。発育枝は長く、細い。樹皮の粗密は中程度であり、樹皮が粗い「伊豆」よりフタモンマダラメイガの食害を受けにくい。雄花は着生せず、雌花のみを着生する。雌花の着生程度は多く、着花は安定している。展葉期は「西村早生」より遅く、「富有」より早い。開花期は「西村早生」より遅く、「禅寺丸」の雄花開花期に近いので、「禅寺丸」が授粉樹として適合する。カキの生理落果は6~7月の早期落果と8月以降の後期落果に分けられるが、「早秋」においては後期落果はほとんど生じない。一方、早期落果の遺伝的な要因には種子形成力と単為結果力があり、種子が多いほど早期落果が少なくなる。「早秋」の場合、単為結果力、種子形成力がともに低いため、年によって早期落果がやや多く発生する傾向がある。したがって、授粉樹を混植する密度を高くする、訪花昆虫を放飼するといった種子形成を促す管理を行う必要がある。

■果実特性

果実の成熟期は「西村早生」とほぼ同時期で育成地(広島県安芸津町)では9月下旬~10月上旬である。開花前に摘蕾を葉蕾比10(目標収量の2倍)程度に行い、早期落果終了後の7月中下旬に葉果比20程度になるように摘果を行ったときの果実の大きさは250g程度であり、「伊豆」とほぼ同程度の大きさである。果形は扁円形で、果頂部がやや凹む。果形がそろいにくく、やや果形の乱れた果実が生じやすい。果実は収穫を遅らせると樹上でカラーチャート値7以上になるが、6程度で収穫しても食味は優れること、果皮が赤くなるまで樹上におくと軟化する果実が一部に発生したり、果実の日持ち性も劣ることから、果頂部のカラーチャート値が6~7程度で収穫することが望ましい。肉質は緻密で、果汁は多い。カラーチャート6~7程度で収穫した時の糖度は14~15%であり、「松本早生富有」や「富有」より1%程度低く、「西村早生」や「伊豆」とほぼ同等である。ごく微小な果頂裂果を生じる場合があるが、へたすき果はまったく発生しない。汚損果は「富有」より多いが、微小な条紋による場合が多い。日持ち性は平均13日程度で、「伊豆」より長い。

■病虫害抵抗性および新培上の留意点

炭そ病に弱いので、適正な防除につとめる必要がある。新梢伸長が終了した6月以降に再度新梢が伸長しやすい傾向があり、このような二次伸長枝は炭そ病が発生しやすいだけでなく、果実との養分競合も生じるため、結実安定のために二次伸長しかけた新梢をかくのがよい。また、果実をできるだけ斉一な果形にするために、摘蕾時にへたの枚数をよく確認するとともに、摘果時に果形の乱れた果実を落とすように気をつける。

■地域適応性

完全甘ガキであり、夏秋期の気温の高い地域に適応し、一般に「松本早生富有」、「富有」、「次郎」、「前川次郎」栽培地域で栽培できる。東北地方南部、北陸地方、高冷地などでは、渋残りが生じることがある。
(佐藤明彦)